

# [dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 46 octobre 1998 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## 三重日仏協会・「フランス年」事業

### 『太陽の地プロヴァンス』日本展 11月3日から

昨年の「フランスにおける日本年」に引き続いて、本年は「日本におけるフランス年」の事業が全国各地で展開されていますが、その一環として三重日仏協会主催による美術展『太陽の地プロヴァンス・日本展——南フランスの新進芸術家たち——』が、11月3日から8日まで、津市の三重県立美術館・県民ギャラリーで開催されることとなりました（入場無料）。これはフランスのエクサン・プロヴァンス市を中心に活躍し、昨年「日本年」でもマルセイユでの『日本市』など大きなプロジェクトを成功させた実績をもつ〈EDET協会・プロヴァンス＝ジャポン〉が、今年こそ自分たちの存在を日本でアピールし、文化交流を深めようと、当地の中堅・新進気鋭の芸術家たち（2面に詳細）の作品による展覧会を三重県で開催したいと本会に打診があり、県立美術館の協力も得られたため実現したものです。6人の作品約30点とともに、代表シモン・ニコラエウィッチ・ギャラコフさんはじめ計4名の芸術家と関係者が来県する予定で、歓迎会、ホームステイなどの交流もおこなわれることになっています。

また、この日仏芸術交流のせっかくの機会を活かすため、日本側からも友情出展の形で参加することとなり、三重日仏協会周辺のフランスにゆかりのある数人の画家たちの作品展示が準備されています。

なお、この催しが三重県で実現した経緯は、本会主催の「フランス語入門講座」の受講生で、この春からエクス市で仏語勉強中の平野真由美さんと、その友人・海山町出身で南フランスで通訳・翻訳などの仕事に従事している世古由里子さんの紹介によって、〈EDET〉と本会との交渉が始まったものです。

### ▶ ジョルジュ・ブラック回顧展も同時開幕 ◀

上記の展覧会と開始日を同じくして三重県立美術館では、同館と中日新聞社の主催により、フランス美術今世紀の巨匠『ジョルジュ・ブラック回顧展』が開催され（12月13日まで）、その開幕式にはフランス総領事も出席される予定です。



## Terre de soleils au Japon

多才な才能、顔ぶれ プロヴァンスの芸術家たち

# 「日本行きは美の源をさぐる旅」

11月3日から三重県立美術館・県民ギャラリーで開催される『太陽の地・プロヴァンス日本展』に出品する6人の芸術家のプロフィールと、それぞれの日本への熱い思いのメッセージが届いておりますのでご紹介します。

### アルランディ ARLANDIS/1946年生

1946年、スペインに生まれ、幼少期の3歳から11歳をアルジェで過ごす。1957年よりフランスにて経理の勉強をした後、旅行業を営む。1968年、大阪で開催された旅行見本市に招かれ初めて日本に。フランス帰国と同時に旅行業を引退、画家としての活動に専念する。

パレットナイフを使い、キャンバスの上でのアクシデントを追い求める。頭の中で望んだものとは必ずしも一致しない偶然の作品。ナイフが勢いに乗ってキャンバスの上を走る。キャンバスの素材、滑りと偶然の傷から神秘が生まれる。

30年ぶりの日本で、1968年の自分の決意とその後の成果を見てもらいたい。(今回来日予定)

### エリック ジュアン Eric JUAN/1966年生

エクサンプロヴァンス大学にて造形芸術を専攻、学士号、修士号を取得した後イーストル市にて1992年より美術教師。1998年、同地のミラマス市にて開催された展覧会に出展。

絵は、現実を見つめることから始まる。日常の見慣れた物の形を追い、自然または人間の手によって作られたものの奇妙な配置を観察し、そこから力強いものを引き出す。自然光がかもし出す色彩、色使いのハーモニー。自分の作品には、荒川修作、横尾忠則、三木富雄らの作品に見られるような技巧的な荒々しさはない。視覚的なまたシンボリックな表現もない。地中海文化に生まれ、西洋の美意識に支えられた自分の作品を日本の人々に見てほしい。

自分にとっての日本は、まったくの異国、未知の世界である。

### クロード ル ボブ Claude LE BAUBE/1919年生

パリ、モンマルトルの画家のアトリエで生まれ、学業終了後は美術館やアトリエに通いつめる。グランドショミエールに通いアンドレ ロートやフェルナンド レジェなどのアトリエで学ぶ。

数十年間船乗りとして世界中を駆け巡ったが、現在は絵画に専念。

アメリカ、パリ、マルセイユなど各地で展覧会を催す。受賞作品多数。作品は海の専門紙に数多く掲載されている。

素晴らしい伝統を受け継ぎながらモダニズムをも征服した日本人に感嘆する。日本人アーティストは人々に夢を抱かせ、詩を聞かせる才能を持ち合わせている。日本の洗練された日常の芸術、偉大なる美に敬意を抱きつつけている。

### シモン ニコラエヴィッチ Simon NICOLAEVITCH/1963年生

ロシア系フランス人。独学でアートを学ぶ。独自の技法で、工業製品用の素材を使い、二次元、三次元の空間を表



現。人間の肌をコンセプトにした作品多数。「肌のエンジニア」を自称しながらプラスチックや合成繊維を多く使用して、切り抜かれた肌、刺青なども表現。自分なりの控えめな美の表現方法を試みている。

フランスにおける日本文化の影響に感銘をうけている。印象派だけでなく、日本の芸術は今日のフランスにも深く影響を及ぼしている。自分もこうした影響を受けている者の一人である。

今回の日本行きは自分にとっての美の源を探る旅である。(今回来日予定)

ジャン ノエル マーラー Jean Noël MARLARD/1964年生

エクサンプロヴァンス大学にて写真を専攻。学士および修士号を取得。プロヴァンスの園芸家。1991年以来、エクサンプロヴァンス市、リール市、チュニス市などでの展覧会に出品。

絵画を通しての自分の創造力に行き詰まりを感じ一時は絵を断念、写真機を手に野菜や魚など静物を写真に撮り始めた。レンズを通して題材を見ること、暗室で被写体のイメージを実現することで、構成とバランス、ボリュームを操る技法をマスターした。写真の道具と技術を使いながら自己表現をするうちに再び絵画の魅力に目覚める。

自分にとっての日本はミステリアスなもの。習慣や生活様式、文化には近づき難いものがある。日本の室内装飾に今も行き続けている伝統的なフォルムに魅せられている。自然を表現しつつも空間を完璧に操った日本庭園はそれ自体が丸ごと芸術であると思う。

ラファエル ゼキエロ Raphaelle ZECCHIERO/1974年生

1994年プロヴァンス、アルプス、コートダジュール地方のコンクールで現代絵画部門2位を受賞。1996・97年、パリのルノワール賞受賞。プロヴァンス地方のギャラリー数カ所で常設展示。

抱擁をテーマにした作品は殆どが1m90cm×1m30cm くらいの大きなもの。主観的な偏愛を多く描く。偏愛の主体は身体であり肉体こそが愛と喜びの媒介となりうる。折り重なる男と女の身体の詩、エロティズムはキャンバスを埋め尽くす身体の迫力と姿勢によって表現されているが、この迫力から生まれている重量感は愛と喜びの興奮によって和らげられている。

広大な国土に程々の文化を持つ国がある。日本はその逆。極めて小さな国土に文化と知性が輝いている。人々の優しさ、洗練された感性は他国に例を見ないと思う。彼らの責任感、使命感の強さには驚かされる。

なお三重日仏協会側から、「友情出展」をお願いした芸術家は (順不同)

中島世津子 (松阪市)、刀根岸子 (久居市)、鈴木正孝 (津市)、藤田万智子 (津市)、亀井カノン (津市、在パリ)、月輪 清 (久居市) の各氏です。

#### 会員各位へお願い

今回の美術展の事業は、作品の展示と管理のほか、受付、訪問団の受入れ、ホームステイのお世話ほか多岐にわたり、通常のスタッフでは力不足となります。どうかボランティア精神で日仏交流に何かとお力をお貸しくださいますように。ご連絡は事務局・井土 (059-226-2766)、滝沢 (059-225-2517) まで。なおホームステイのお客は、男性2名と、女性2名 (フランス人と日本人、同宿を希望) で、ごく日常的な日本の生活を望んでおります。部屋に余裕のある方はお気軽にお引き受けください。



**ウーヴリュール大使が離任 後任にグルド＝モンターニュ氏**

1993年以来駐日フランス大使としてご活躍され、全国の日仏協会関係の会合などにもたびたび出席されたジャン＝ベルナル・ウーヴリュール氏は、このほど離任するにあたり、三重日仏協会・会長宛に下のような挨拶状を寄せられました。(訳文)

拝啓 日本での任期を終えて間もなく帰国することになりました。

5年近い日本滞在中に、地方への視察や会員の方々にお目にかかる機会が度々あり、いつもフランス文化の紹介や両国間の友好関係のために積極的に活動しておられ日仏協会の存在を頼もしく思っていました。これも中心になっておられる貴殿のおかげであると感謝しています。

日本を離れるにあたって心からお礼を申し上げますと共に、貴協会の益々のご発展をお祈りいたします。

敬具

駐日フランス大使

ジャン＝ベルナル・ウーヴリュール

なお後任の駐日大使として、モリス・グルド＝モンターニュ氏 Maurice Gourdault-Montagne が着任されました。

**11/7(土), 8(日) 『みえ歴史街道フェスタ』大フィナーレ 伊勢市**

**三重日仏協会「国際街道」テントでパン、ワインなどを販売**

三重県などの主催によるこの秋の大イベントである『みえ歴史街道フェスタ』は、10月10日に開幕、この間京都を出発する「斎王夢行列」など多彩な行事を繰り広げますが、行列が伊勢市に到着する11月8日にはグランドフィナーレのイベントが同市の県営サンアリーナで行われます。ここでは前日から「食と緑のふれあい祭り」など多数の展示即売のテントが勢揃いしますが、その一角「国際街道」に他の国際交流団体とともに、三重日仏協会もテントを出展し、会員の参加によってパン(ドミニク・ドゥーセさんらによる)、ワイン(長田康二さんらによる)の販売のほか、本会の存在をPRする活動を展開することになりました。行楽を兼ねて会員のご参加を期待します。

**11月/25(水) 伊藤隆之ピアノ・リサイタル**

**三重県文化会館主催 「三重県出身音楽家シリーズ」 第一回**

詳しくは同封のチラシをご覧ください。(なお本紙前号に「11/26」とありましたのは誤りでした)

**新会員紹介**

昨年度、会員名簿を製作しお届けいたしました。その後入会された方々は次のとおりです。(五十音順・敬称略)

- |        |          |                           |               |          |                  |
|--------|----------|---------------------------|---------------|----------|------------------|
| 伊藤 雅人  | 516-0028 | 伊勢市中村町1156-6              | 清水 みどり        | 279-0012 | 浦安市入船2-22-205    |
| 門野 節子  | 498-0816 | 桑名郡木曾岬町源緑輪中794            |               |          | 入船西エステート         |
| 亀井 カノン | 77       | Bd. du Montparnasse PARIS | 橋本 信賢         | 514-0008 | 津市上浜町3-19        |
|        |          | (津市渋見町770-67)             | 浜野 豊彦         | 519-3617 | 尾鷲市野地町10-1-1-302 |
| 里見 和子  | 514-1118 | 久居市新町2760-2               | 龍泉寺 由佳        | 510-1253 | 三重郡菰野町潤田355-67   |
| 清水 道子  | 510-0302 | 安芸郡河芸町千里ヶ丘62-3            | ジャン＝ミシェル・マシュレ |          | 浦安市入船2-22-205    |
|        |          |                           |               | 279-0012 | 入船西エステート         |

**訃報**

会員 **清水一男さん** 7月ご病気のため死去されました。 **アンドレ・ブリュネ氏** (立命館大学教授・1991年本会総会で記念講演された) 8月 死去されました。ご冥福をお祈りします。